

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成20年11月27日(2008.11.27)

【公開番号】特開2007-275871(P2007-275871A)

【公開日】平成19年10月25日(2007.10.25)

【年通号数】公開・登録公報2007-041

【出願番号】特願2007-58648(P2007-58648)

【国際特許分類】

**B 0 1 D 63/10 (2006.01)**

【F I】

B 0 1 D 63/10

【手続補正書】

【提出日】平成20年10月10日(2008.10.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

従って、本発明のスパイラル型膜エレメントは、図 5 に示すように、分離膜 1、供給側流路材 2、および透過側流路材 3 が積層状態で、有孔の中心管 5 の周囲にスパイラル状に巻回された円筒状巻回体 R を備えると共に、供給側流体と透過側流体の混合を防ぐための封止部が設けられている。封止部には、例えば、両端封止部 1 1 と外周側封止部 1 2 が含まれ、また、中心管 5 の周囲の封止を行うために封止部 1 3 を形成してもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

次に、図 6 (b) に示すように、この分離膜ユニット U の複数を積層し、有孔の中心管 5 の周囲にスパイラル状に巻回した後、接着剤を硬化させるなどして、封止部 1 1 , 1 2 , 1 3 を形成する。その際、粘着テープをコイル状に巻き付けて、円筒状巻回体 R の形状を保持してもよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 5】

例えばデザインラベルのように、プラスチック層 2 4 に表示等を設ける場合、その外周面に繊維布補強樹脂層 2 5 が設けられると、繊維布の開口度が小さいと繊維布裏側のデザインラベル界面まで樹脂が到達せず、空気層が生じ密着性が低くなるために、デザインラベルの視認性が低下する。このような場合、視認性を満足させるためにはデザインラベル上(繊維布下)において、樹脂層を設けることで密着性を上げることができる。また、開口度が大きいガラスクロス等を使用することで、樹脂が繊維布裏側のデザインラベル界面まで侵入して、密着性を上げることが可能となる。また、繊維布の開口度が大きい場合、樹脂の含浸性が良好になるため、繊維布に樹脂を塗布しなくても、繊維補強樹脂層 2 6 を

構成する樹脂を移行させて、繊維布に樹脂を含浸させることも可能である。